

# マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 6 原作シナリオ

山崎浩治

## マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」原作シナリオ

---

### #1 まばらな人通りの片町スクランブル(夜)

アヤカのM「それは大みそかのことでした」

### #2 「スナック香澄」店内

アヤカ、香澄ママ、常連客の吉岡と美鈴がいる。

吉岡「大みそかに店を開くなんて珍しいよな」

美鈴「こんな日に店に来る客も珍しいけど」

吉岡「オレは店が終わった後、香澄ママと初詣行くつもりなの。美鈴ちゃんの方こそどうしたんだよ」

美鈴「いま付き合ってる彼は妻子持ち。年末年始は家庭に帰っちゃうの」

アヤカ「(吉岡に)ハイボールのウイスキー抜きのお代わり、どうぞ」

香澄ママ「ごめんね、アヤカちゃん。大みそかに出てもらって」

アヤカ「どうせお父さんはタクシーの出番だし、実家に一人でいても仕方ないんですよ」

扉が開いて、くたびれたコートとスーツ姿の友田(50代)が入ってきた。

友田「久しぶりやな、香澄」

香澄ママ「長いこって、友田さん」

友田「(腰を下ろし)ビール、もらおうかな」

香澄ママ「(おしぼりを渡し)今日もお仕事だったんですか」

友田「零細企業の社長は貧乏ひまなしや(煙草を口にくわえ、火をつける)」

香澄ママ「(ビールを注いで)友田さん、ずっと禁煙されてたのに」

友田「(なげやりに飲んで)もう健康のこと、気にする必要はないからな……」

アヤカ「(怪訝に)……もう？」

友田「(アヤカに)君は？」

アヤカ「アルバイトのアヤカです！ よろしくお願いします！」

友田「(店内を見回し)高級クラブのナンバーワンだった香澄が、失礼やけど、こんなちっぽけなスナックをやるとは思わなかったよ」

香澄ママ「ポケットマネーで気軽に飲めるお店をやりたかったんです」

アヤカ「香澄ママの料理のファンも多いんですよ！」

友田「(遠い目で)香澄は身の丈に合った店を開いたというわけか」

友田のM「私とは正反対だな」

### #3 友田の回想

広々としたオフィスの上席でハツラツと仕事する友田。

友田のM「やり手の営業部長だった私は片町でも羽振りよく飲み歩いたものさ」

高級クラブでホステスたちをはべらせ、ご機嫌の友田。

友田のM「そして自分の力を過信して北陸新幹線景気を当て込み、2年前に独立した」

× ×

狭いオフィスで肩を落としている友田。室内に置かれた月間予定表は真っ白。

友田のM「長い付き合いの取引先からは独立後、仕事をもらえるとと思っていたが、世間はそれほど甘くなかった。私は勤めていた会社の看板で仕事をしていたということを、いやというほど思い知らされた」

× ×

閑散とした自宅で立ち尽くしている友田。

友田のM「私の会社はたちまち行き詰まり、借金がみるみる増えていった。金が原因で口論の増えたカミさんは息子を連れて実家に帰った」

#### #4 「スナック香澄」店内(現在)

友田「(胸ポケットから手帳を取り出す)……」

友田、手帳に殴り書きされた「久しぶりに片町に飲みに行く」という言葉をボールペンで消していく。その言葉の上に書かれた「故郷に帰る」「おふくろの手料理を食べる」が棒線で消されている。

アヤカ「(そのページを見て)……それ、何ですか」

友田「(沈痛に)今年の正月に立てた、1年の目標。まったく達成してなかったから、今日じゅうに実行しとこうと思ってな、田舎の能登にも帰ってきたんや」

アヤカ「(友田を凝視して)……お母さんの手料理、何を食べてきたんですか」

友田「ブリの茶飯。ブリの刺身を炊きたたのご飯に乗せて、熱々のお茶をかけて食べるとうまいんだよ」

アヤカ「うわあ、おいしそう！ あたしも能登出身だけど、食べたことないです！」

友田「今度、実家に来るといい。食わせてやるよ」

アヤカ「(目を輝かせ)ホントですか！ いつ食べさせてくれますか！」

友田「いつって……いま、決めるんか」

アヤカ「はい！ 明日、友田さんの実家に連れてって下さい！」

香澄ママ「ちょっとアヤカちゃん、明日はお正月。友田さんのご迷惑よ」

美鈴「そうそう。どれだけブリの茶飯に食いついてんのよ」

アヤカ「じゃ、お正月明けに食べに行ってもいいですか？」

友田「(アヤカから目を背け)……」

アヤカ「(深々とお辞儀して)お願いします！」

そんなアヤカを呆気にとられて見ている香澄ママ、美鈴、吉岡。

友田「……それじゃ正月明けに」

アヤカ「指切りげんまん(と友田に小指を突き出す)！ 約束破ったら針千本ですからね！」

友田、アヤカの小指をまじまじと見つめている。

アヤカ「(真摯な表情で友田を見つめ)……約束して下さい！」

吉岡「どうしたんだよ、アヤカちゃん。そんなにムキになって……」

友田「(不意に柔和な表情になって)アヤカちゃんは私が自殺するとでも思ったんか」

香澄ママ・美鈴・吉岡「(驚愕して)……！」

アヤカ「友田さんの手帳に書いてあった今年の目標、エンディングノートの`死ぬまでにやりたいことリスト、みたいだったから。あたしのお母さんも病気で亡くなる前、エンディングノートを書いていたんです」

#### #5 病室のベッド上でペンを走らせるアヤカの母の手帳

「お金関係はタンスの一番上の引き出しに。指輪とネックレスはアヤカにあげる。お葬式で流してほしい音楽は――」という文字が見える。

× ×

友田の手帳。殴り書きされた「煙草を好きなだけ吸う」「故郷に帰る」「おふくろの手料理を食べる」「久しぶりに片町に飲みに行く」「カミさんと息子に会いに行く」の文字。

最後の「カミさんと息子に会いに行く」以外は棒線で消されている。

友田のM「死ぬ気だった」

#### #6 断崖に立つ友田(回想)

友田「でも、最後の最後に、やり残したことを思い出した。それだけはやって死のうと思ったんや」

友田、手帳に走り書きしていく。

#### #7 「スナック香澄」店内

友田「(手帳に目を落とし)……」

アヤカたちはかける言葉を失っている。

友田「羽振りが良かったころを思い出そうと久しぶりに片町に来たけれど、香澄の店が開いていて良かったよ。アヤカちゃんのおかげで、来年の目標を思いついた」

友田、`死ぬまでにやりたいこと、ページを破る。

友田「(力強い目で)仕事は来年、必ず巻き返す。そしてまた、香澄の店に飲みに来るよ。その時は一番高いボトル入れるからな」

香澄ママ「(ニッコリ微笑んで)……」

アヤカ「その日を楽しみに待ってます！」

友田「家を出て行ったカミさんと息子に会いに行ってみる。もう一度、やり直して欲しいと頼んでみるつもりだ……(席を立ち)お勘定、ママ」

香澄ママ「友田さんには昔、ずいぶん稼がせてもらいました。今日の分はその時に頂いています」

友田「ありがとう、ママ(扉を開けて、出て行く)」

香澄ママ「(その背中に)よいお年を、友田さん」

優しい表情で見送っているアヤカ、美鈴、吉岡。

12時を回っている店内の時計。

香澄ママ「さあ、みんなで尾山神社に初詣に行きましょうか」

#8 雪が舞う尾山神社でお参りしているアヤカ、香澄ママ、美鈴、吉岡

境内に飾られた絵馬。

その一枚に「みんなが幸せでありますように 美咲アヤカ」と記されている。

おしまい